

平成 30 年 3 月 30 日

【平成 30 年度第 1 回（26 回）セミナーのご案内】

日 時：6 月 16 日（土）13：30～16：10

場 所：日本点字図書館

テーマ：「どうなる？視覚障害児童・生徒の学習環境！」

文科省から 2020 年度にデジタル教科書を提供するという方針が発表されました。しかし、デジタル教科書という言葉は耳にするものの、まだまだ私たちにとって漠然とした存在で、今後、どのように学習環境が変化していき、児童・生徒はどのように関わっていくのか、わからないことも多いのではないのでしょうか。

4 年前に、デジタル教科書の可能性についてセミナーで取り上げましたが、その第 2 弾として、視覚障害児童・生徒にとってのデジタルデータの活用方法や、デジタル教科書の最新の現状と今後の動きについて学びます。

また、昨年度、石川県小松市で視覚障害のお子さんが地域の学校に入学されました。初めての受け入れということで、入学に至るまでに何度も教育委員会とやりとりをされ、初めは難色を示されていましたが、最終的に許可されたという経緯があります。入学前の周囲への理解や、入学後の学校の状況などを保護者の方からお話しいたします。

プログラム：

13：00 受付開始

13：30 理事長挨拶

13：40 講演「地域の小学校に入学させて考えること」 柴田久子氏（石川県小松市）

14：30 デジタル教科書への点字でのアクセスの可能性を探る

副題 テキストデイズを題材に 澤村潤一郎氏（日本点字図書館）

休憩（10 分）

15：10 講演「学校教育法等の一部を改正する法律案について」 村山泰士氏

（文部科学省初等中等教育局教科書課企画係（併）デジタル教科書企画係）

16：00 質疑応答

16：20 閉会

定 員：90 人

参加費：無料

お申し込み・問い合わせ

5 月 26 日（土）までにメールかファックスで、下記までお申込みください。

その際、お名前、所属グループ、連絡先をご連絡ください。定員になりしだい締め切らせていただきます。

日本点字図書館 松本 e-mail: matsumotom@nittento.or.jp

TEL: 03-3209-0241（代表）/FAX: 03-3204-5641

【平成29年度第2回(25回)セミナーのご報告】

日 時：平成29年11月19(土) 13:00~16:00

場 所：玉水会館

テーマ：「点字学習の導入と、国語教育における点字の表現方法」

1. 「点字の読み書きの導入と指導教材」

講師：広島大学大学院教育学研究科教授 牟田口辰己氏

点字は読みと書きのどちらを先に指導するかなど、これまで様々な議論がなされてきたが、今回は大内進氏による「点字指導法のレビュー」を元に点字指導法の紹介があった。

基本的な指導の在り方は、まず両手読み、指の腹で軽く触れること、行替えの指導を大切にすることである。盲学校では文科省の指導書その他、指導者が学習者の指を持つ「他動スライディング方式」などが実践されている。一方、読みの速さを求めることが難しい中途失明者の場合は、点字一文字を縦に読めるようにする方法が実践されている。これは、「第1段目が点(1の点)が棒(1・4の点)かの区別がつけば点字は読める」ことに着目して、横方向だけでなく、縦方向の動きも取り入れた触読法を用いている。

右手・左手による片手読速度の差異が小さい両手型と左右差が大きい右手型あるいは左手型の両手読速度を比べると、両手型の両手読速度は速い手による片手読速度よりも20-30%も速い、つまり両手の利得が大きい、左右差が大きいほど、両手の利得が少ないことが分かった。

2. 国語教育における点字表記とレイアウト

講師：愛知県立大府特別支援学校教諭 坂井仁美氏

新たに小学3年生のひらがなとカタカナの単元で普通文字のひらがなとカタカナの字形の一覧表が掲載された。漢字については、92字が選定され、字形も掲載された。導入期の教材については、行間を広くする、例語を児童の生活に即したもの・切れ続きに揺れないものに変更、線たどりの練習、左から右にたどって読むことを考慮した記述などである。

中学の古典教材について、和語は歴史的仮名遣い、漢語は現代語の表記で点訳する。大事にしているのは、「学習の順序を示し、全体の構成を明確にすることである。」

点字試験問題とするための基本的なアレンジでは、普通文字の受験者が書かなくて良い部分まで書かせない、漢字の同音異義語に注意するなど、全国学力調査やセンター試験でも配慮がされるようになってきた。点字受験でも正当に学力を評価されるようになることが大切である。

【休憩の後、質問や意見・情報交換の場としました。】

Q：点字の読みの初期段階で、他動スライディングを行うということだが、具体的にどのようなのか。

A：生徒の隣に座り、チョキで生徒の人差し指をはさみ、動かす。

情報：『点字学習指導の手引き』は、日本文教出版が版元になっている。

Q：表記法では、注記符をそれが指し示す語の直後にしているが、語の前にしてもよいことにはなっている。

A：中学校の教科書では、子ども達に両方に慣れてもらうために、注記符が前の場合と後ろにある場合とがある。

意見：教科書以外では前につくことはほとんどない。読むスピードに影響するとも思えないが、ダブルスタンダードになるのではないか。注記符は後ろにつけた方が良いと思う。

A：学力調査では墨字と同様、あえて前に注記符をつけた。

意見：試験中は生徒も焦ったり、緊張したりしているので、前についている方が良いようだ。

Q：小学部のローマ字指導では外引符にしているのか。

A：外引符ではなく、「か」はKA,「す」はSUというように教えている。

意見：地域の学校に通う子どもに点字の読みを教えるのはなかなか難しい。盲学校の点字協議会などに参加させる方法もある。大学では、学生に手で読ませることを行っているがかなり難しい。1分間に100字読めるようになればやる気が出てくるようだ。また、用意ドンで競わせれば、効果的な感じがする。

Q：高等部の知的障害生徒がパーキンスは打てるが読めない。詩や俳句を暗誦させて打たせ、それを読ませているが、暗誦できるから読めるので、触読ができていないわけではない。何か良い方法があれば教えてほしい。

A：知的障害の児童にはリベット、棒差しが良いという意見もある。

最初に触読するには、2マスで前のマスの4の点と次のマスの1の点くらい点間があればわかりやすい。私（坂井）は大点丸を使ってみた。

意見：見える子どものための図、特に断面図などを見えない子どもに点図にして分かってもらうのは難しい。子どもは「分かった？」と聞かれると「分かった」と言ってしまう。弱視の子のための大きい表に、点字シールを離してはっても見えない子には読みにくい。

意見：工夫して美しいレイアウトで子どもが分かれば嬉しい。普通高校の教科書や副読本など、点訳ボランティアの作ったものは、言葉で言っても理解できない足し算なども数字の式を書くことによって理解できた。また、ディズニーランドがリズニーランドだと思っている生徒がいたが文字指導の大切さを感じた。

意見：盲学校では個別支援計画を作成して、行っているが保護者からは歩行訓練や点字を早くやって欲しいとの願いがある。しかし、レディネスのこともあり、教員間で話し合っている。点字にするか墨字にするかは、進路のなかで決めていく。墨字にしる、点字にしる「自分の文字」をもつことは大切である。 文責 込山光廣（理事）

【閉会のあいさつ 加藤理事】

盲学校の教科書は編集委員会で、児童生徒に理解ができるようにしている。地域の学校に通う児童生徒の教科書も点字編集しなければならないが、現状としては、ちゃんと伝わるようにボランティアがやらざるをえない。

今日は多くの方々に参加していただきましてありがとうございました。

【平成29年度第3回理事会記録】

日時：平成29年11月18日（土）11:30～12:00

場所：玉水記念会館

議題：セミナーの流れについて確認しました。

【平成 29 年度第 4 回理事会記録】

日 時：平成 30 年 2 月 17 日（土）13：30～16：30

場 所：日本点字図書館会議室

内 容：

1. 「社会貢献賞受賞」

公益財団法人社会貢献支援財団より授与された、社会貢献賞の授賞式が 11 月 27 日に帝国ホテルで行われました。当日の様子について込山氏より報告があり、賞状と、副賞として 50 万円を頂戴しました。

※ 6 月の総会でも、会員の皆様に報告いたします。

2. 「教科書点訳のてびき」について

2 月現在、残部が 34 冊になりました。教科書改定は 2 年後にあるため、今は増刷はしないことになりました。

「日本の点字表記法」が今年改定されるのに伴い、教科書点訳に関係する英語、理数点訳の表記の変更内容については、今後、チラシを適宜紹介していくことになりました。

3. 平成 30 年度第 1 回セミナーについて

上記の通り

4. 30 年度総会

日 時：6 月 16 日（土）11：00～12：00

場 所：日本点字図書館

次回は、6 月 16 日（土）、12 時から日本点字図書館で行います。

【事務局からのお知らせ】

<会費納入のお願い>

30 年度会費を同封の振替用紙にてご納入ください。

よろしく願いいたします。なお、総会のおきにお支払いいただいても結構です。

<委任状のお願い>

6 月の総会にご欠席される方は、委任状をお出してください。

発行日：平成 30 年 3 月 29 日

発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：田中徹二

連絡先：（社福）日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場 1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：matsumotom@nittento.or.jp

振込口座番号：0180-7-262151